

# KLiS TODAY

No.  
2

## 筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日 1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162

URL <http://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail [klis-info@inf.tsukuba.ac.jp](mailto:klis-info@inf.tsukuba.ac.jp)

### 新学類二年目を迎えて

この4月、石井学類長の後を引き継いだ溝上です。2年間、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、新しい学類としてスタートした昨年度は、教育課程に様々な新基軸を盛り込み、十分な教育ができるよう努力をしてきました。そのひとつとして、成績の総合指標としてGPA (Grade Point Average) を導入し、学生が自分の学習状況を判断できるようにしました。また、今年度の入学直後のオリエンテーションでは、100名の新入生に放送大学とアジア経済研究所図書館へのバスツアーを実施し、現場の見学とともに、少しでも早い時期から仲間ができるように配慮しました。

一方、1期生は、夏の大学説明会で学生企画による独自パンフレットを作成・配付したり、桜並木の下で新入生歓迎のバーベキュー大会を開催したり、キャンパスライフにすっかり溶けこんでいます。1期生の学生諸君は、私たち教員の期待以上に、元気良く大学生活を送っています。

これからも、すべての学生が生き生きと大学生活を過ごせるような工夫をこらしていきたいと考えています。ご家族や高等学校の先生方におかれましても、引き続き本学類の教育活動にご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

知識情報・図書館学類長 溝上智恵子



## 「古典」を読むことが歴史理解の鍵である

寺田 光孝

この三月まで「西洋」と「日本」の「図書館文化史」を担当し、「西洋史概説」についても一部をお手伝いしてきた。歴史とは何か、歴史について考えさせられる日々であった。中国人を知るには『金瓶梅』を読めと授業で何度か言ったものである。些か鬻鬻を買うかなとの懸念もなきにしもあらずではあったが、所謂小父さん族の愛読書の薦めではなく、韓非子の国であることを自覚せよとの意である。徹頭徹尾悪が栄える、あるいは最初から最後まで悪人が小説の主人公であるという、この作者の強靱な精神力は到底日本人の真似のできることはない。他者としての中国人認識をして欲しいというのが主意である。

西洋を知るにはやはり『聖書』を読むに限るというのも、授業で繰り返し言ってきたことである。キリスト教徒になれということではない。「創世記」でも「ヨブ記」でもよし、新約の「福音書」でもよし、一神教にして創造神という神の物語や透徹した人間心理の物語は、他者性としての西洋を理解する上で欠かすことができない。今日の西欧諸国は非キリスト教化というか世俗化が進んではいるが、西欧社会の骨組みはギリシア（の文化・理性）+ローマ（の統治）+キリスト教でできあがっている。こうした論理の枠組みの理解、言葉を換えれば西洋論理の普遍性の理解は、ただ単に普遍性の理解にとどまらず、日本人にとっての「他者性」として理解することが必要だとかねがね思ってきたからである。

教科としての歴史、所謂受験勉強での歴史はよく暗記科目と称される。確かに基礎的データの知識はもとより必要ではあるが、歴史は決して事実や出来事のデータの羅列ではない。出来事のデータの裏に深い歴史があることは誰もが感じている。歴史とは詰まるところ人類の時間認識であり、意味の確認作業であり、歴史こそが意味の発生源である。現在は未来への投企のなかにあり、それゆえ不透明な部分を抱え込んでおり、現在の意味は直ちに了解されるというものではない。現在は過去に沈殿し、過去の文脈において始めて意味が捉えられる。人類の過去こそが意味、われわれの生きる意味が湧出する基盤である。歴史的な視点はまた、現在の出来事にマクロな人類史という長い射程で照射することであり、ズームを伸縮させて焦点を合わせる作業にも似ている。ミクロ・マクロの視点を縦横に駆使して物事を捉え考えることが、歴史の醍醐味ともいえよう。

歴史を知る手だてとして、例えばF. ブローデルの『地中海』のような壮大な歴史書を読んだり、知の考古学と称されるM. フーコーの『言葉と事物』などを読むことももとより必要ではあるが、私は何よりも「古典」を読むことを勧めてきた。「古典」こそ、様々なジャンルがあるにせよ、歴史理解の手っ取り早い方法ではないかと思っている。「古典」こそ、人間探求の極限の姿であり、それぞれの時代に古典がおり、古典はよき歴史理解の手だてとなる。「古典」こそ、歴史理解の鍵である。

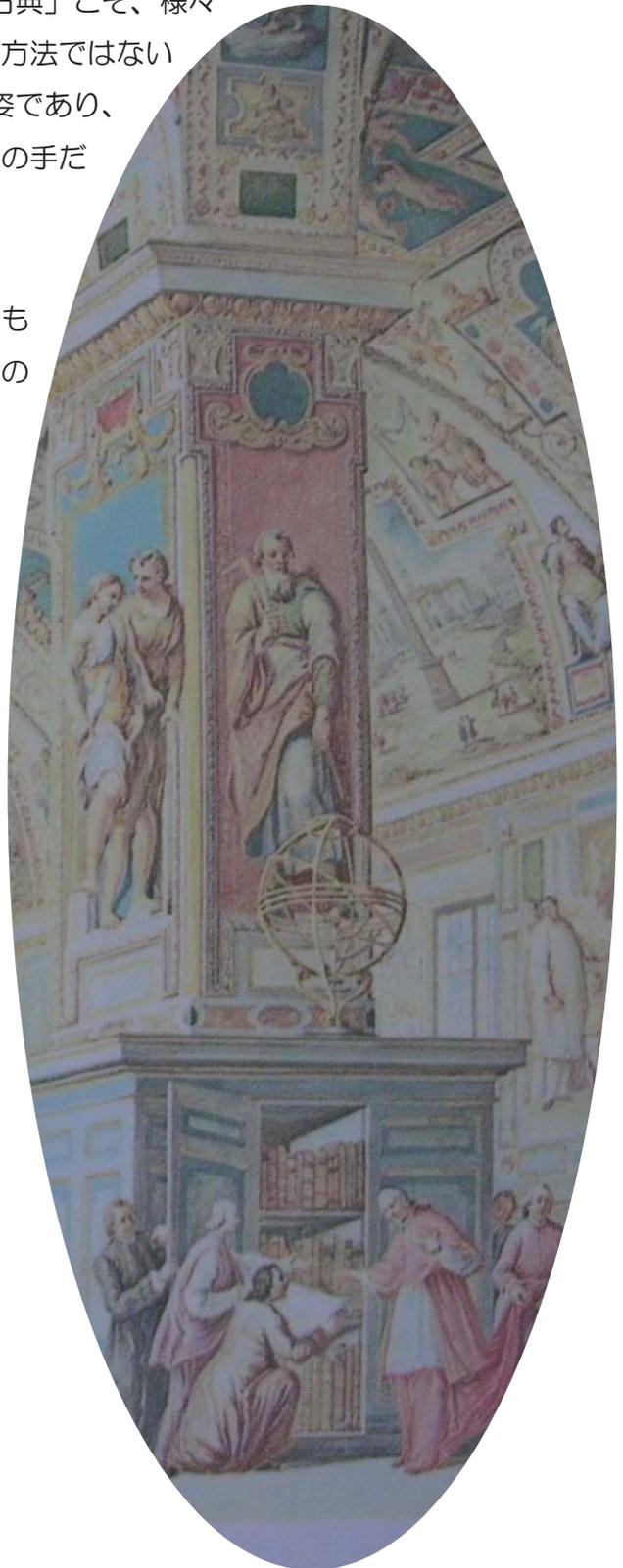
授業ではまた、城山三郎の『鼠』を読ませることもした。これは戦前の鈴木商店の話であるが、事典での歴史的な記述と往時鈴木商店に勤務していた人々の実感との乖離・距離感から事実追求を試みるという話である。歴史を考える場合、現在での意味と、そこに生きた過去の人々の実感との乖離ということもつねに念頭に措いておく必要がある。

ともあれ、若い世代の諸君には、是非とも貪欲に読書、殊に「古典の読書」に親しんで貰いたいと思う。

(てらだ みつたか 2008年3月まで  
筑波大学図書館情報メディア研究科教授)

#### 寺田先生おすすめの本

- 1) Braudel, Fernand. 『地中海 1 環境の役割』  
浜名優美訳. 普及版. 東京, 藤原書店,  
2004.1, 654p. (ISBN 4-89434-373-8)  
3,990 円.
- 2) 城山三郎. 『鼠: 鈴木商店焼打ち事件』東京,  
文藝春秋, 1975.3, 366p. (文春文庫,  
し-2-1) (ISBN 4-16-713901-4) 570 円.



## 卒業生から 在校生へ

卒業生からのメッセージ

苅米志帆乃

### ◎学生生活

私は高専から図書館情報専門学群に編入学しました。図書館情報処理主専攻に所属しましたが、情報処理の講義だけではなく図書館関係の講義も受けることができ、より視野を広げることができました。司書資格の取得に必要な科目なども履修しました。また私は学生宿舎で生活していたため、他学年の知り合いもたくさんでき、単位取得のためのお得情報はもちろん、その他の生活の知恵などもたくさん得ることができました。



指導教員の藤井敦准教授と一緒に

### ◎卒業研究

4年次の卒業研究では、週1で行われる全体でのゼミと個別指導があり、ゼミでは進捗状況や今後の予定などを報告しました。レポートの提出は結構きついのですが、そのつど研究の状況を確認することで問題点を認識でき、研究を進める時や煮詰まってしまった時などに役立ちます。

また卒業研究は、不安ながら始めた研究でしたが、先生の指導や適切なアドバイスのおかげで無事提出することができました。それによって全く知らなかった研究の進め方を学ぶことができました。プレゼンテーションの方法などについても、たくさんの機会を与えていただくことで、以前よりは自信をもってできるようになったと思います。

卒業研究では、多彩な料理の検索や栄養バランスを考慮した献立の検索を目的とし、料理どうしの類似と組み合わせに基づいてレシピを検索するシステムを構築しました。この研究は情報処理学会第70回全国大会の学生奨励賞を受賞しました。

### ◎最後に

在籍していた時間は短いですが、とても充実した2年間を送ることができました。今は、大学院において、より専門的な知識を身につけ有意義なものにしたいと思っています。

大学は、自ら求めれば、多くの先生方の指導や適切なアドバイスを受けることができます。有意義な学生生活を送れるように、挑戦的かつ自発的に動くことをお奨めします。また、何事も楽しむことが大切だと思います。自分の興味がある研究などに挑戦し、楽しい学生生活を送ってください。

(かりこめ しほの 現在、筑波大学大学院図書館情報メディア研究科)

## 卒業生から 在校生へ

「ダンコたる決意」ってヤツをどうかよろしく  
弓削純太

みなさん、こんにちは。タイトルは、バスケットボール漫画『スラムダンク』の主人公である桜木花道のセリフからです。そしてこのセリフが、私がみなさんに伝えたいことの全てです。

### ◎私の学業及び生活面

私は、3年次の3学期から卒業研究と公務員試験の勉強をしていました。経済的事情で4年間ずっと学生宿舎にお世話になりました。2年次と3年次にはつくば市立中央図書館でのアルバイトをしていました。



### ◎楽しく過ぎた日々

一番学生らしい日々を謳歌したのは、2年次でした。平日は朝から夕方まで授業、土曜日は1日バイトをして、日曜日は授業の勉強やレポート書きをしていました。そして、その合間に友達と遊んだり、食事に行ったりしていました。

毎日が忙しく、慌ただしく、そして楽しく過ぎていきました。とくに、友達とソフトボールとサッカーのチームを組んで参加したスポーツ・デーは、忘れられない思い出です。

### ◎進路・就職について

しかし、3年次になると、毎日を楽しく過ごす中にも、将来や進路についての切迫感が、どこからともなく芽生えてきました。そして秋になると、就職に向けて、急激に周囲が浮足立ってきました。私も、就職イベントに参加したり、企業案内を取り寄せたり、SPIを受けたりと、流れにのみ込まれていきました。悩んだ末、私は公務員を目指すことにしました。もともとは図書館員になりたくて、私はこの学群にやって来ました。様々な可能性がこちらを手招いていましたが、今一度初心を見つめ直してみたのです。

4年次になると、一人で過ごす時間が多くなりました。独り机に向かって研究と勉強に勤しみました。孤独に耐え、妥協を忍んで、怠け心と戦っていました。

### ◎新たな気持ち

11月下旬に、進路が決まりました。それから、私の心の中には新たな気持ちが湧いてきました。それは、一所懸命働き、日々の糧を得ながら、社会をつくる一員としての責任を果たしていこうという気持ちです。過去の自分に未練もあり、現在の自分に愚痴もこぼします。それでも、目の前の扉を開き、先へと進んでいくことにやぶさかでない気持ち、そんなものを今私は持っています。

だから、みなさんどうか、卒業するその日までに、胸の中に何か強い気持ちを宿して下さい。その気持ちをつかめたときに、この場所、この大学に来た甲斐があったと思えるはずです。

(ゆげ じゅんた 現在、水戸市事務職員)

## ラーニング・commons 4/11 OPEN !

学生諸君が大学生活への適応を支援し、大学生としての学習方法を自ら学ぶ場としてラーニング・commonsを4月11日にスタートさせました。知識情報・図書館学類のラーニング・commonsは、履修計画のたて方、学生生活の過ごし方、レポートの書き方、図書館の使い方、パソコンの使い方などの相談の場です。対象は1年生で、学群と大学院の先輩学生が支援してくれます。



教員と学生と一緒にオープンの準備をしています(上)。  
先輩学生に相談したり、グループで作業をする学生(左4枚)  
1年生のほか、どの学年の学生も利用できます。

快適な椅子やテーブル、プラズマ・ディスプレイなども設置されており、グループ学習や自習の場としても利用できる空間となっています。オープンから2ヶ月、多くの学生諸君に利用されています。(ラーニングcommonsのために、椅子とプラズマ・ディスプレイを(株)アクセルから寄贈していただきました。)

ラーニング・commonsは、  
90年代のアメリカで大学図書館の  
新形態として生まれたもので、印刷資料  
のみならず電子資料にも学生が自由にアク  
セスできる場のことをいいます。現在の  
ラーニング・commonsは進化の途上に  
あり、様々な形態が見られます。

### 開室時間

月：15：00～19：00  
火：15：00～19：00  
水：13：30～19：00  
木：15：00～19：00  
金：16：30～19：00

場所 208号室